授業改善等に関する報告書（2022 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS（Lerning Management System）manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

［2022（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グローバル・アートスタディズｆ	串田　紀代美	前期の授業、お疲れさまでした。学生のみなさんが協力してくださったおかげで、通常14週の授業では到底扱いきれない授業内容を無事に終えることができました。毎回、大量に文章を書く課題に積極的に取り組んでくださったことに、まずは感謝を申し上げます。こうした学生のみなさん一人ひとりの授業や課題への取り組み姿勢は、何よりも私自身大変励みになりました。授業アンケートでは、説明の明確さや聴き取りやすさ、パワーポイントや資料のわかりやすさなどの点を含め、総合的に96%の履修者の方々が本授業に満足してくださったことは、ひとえに皆さんの真摯に学ぶ姿勢のおかげだと思っています。今後も、他者に対して明確に伝える文章力を一生の武器にして、社会で活躍なさることを信じております。
デザイン実習ａ	下山　肇	学生が修得すべき「美の探究」のうち、主に、人文・社会・自然の 中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を修得する。という到達目標が概ね達成できただろう。 今後もさらに、授業に対する理解が深まるよう工夫を重ねていく。
デザイン実習ｄ	下山　肇	デザイン実習の授業で最も高度なデザインについて学ぶ授業である。 産学連携によるSDGsを扱った課題に取り組むことで、デザインと社会のつながりを具体的に身近なものとして意識することができた。 産学連携としての取り組みの上での「ワークショップ」の研究と開発だったということもあり大変だったと思うが、良い成果が生まれたと思う。 授業内でも触れたように、感動を起こす「経験」をつくるということはデザインにとどまらず社会に出ても常に要求されることである。グループワークをメインとした授業形態によって、必然的に他の履修者とのコミュニケーションが促され、協調性や新たな気づきを得られたことで、履修者それぞれが自身の成長を実感できたようだ。
デザイン入門ａ	下山　肇	アンケートの結果から、実際の素材を活用しての学習成果が表れている。 色彩や構成などの基本的な技法を学びながら、「デザイン」に関しての概念や思考法についての基礎が身についたようである。 課題だけにとらわれないデザインの本質的な考え方として、また教員として生徒指導を行う際にも身につけるべきことについて習得されている。 自身の成長に対する実感を持って修了できたことが伺える。 今後も実際の状況を細かく見ながら判断し、授業を進めていく。
絵画実習ａ	織田　涼子	授業の進行は適切で、配布資料や説明はわかりやすいとの評価を得て安心しました。課題を通して描写する力が身についたと実感できたようで大変嬉しく思います。今後も様々な方法に挑戦し、楽しんで創作されることを期待します。
絵画入門ａ	織田　涼子	授業全体、板書や配布資料のわかりやすさ、双方向の工夫は概ね良い評価となりましたが、説明の声が聞き取りにくい点、各回のスピードが早いとの指摘があったため、今後は全体説明や机間巡視の方法を改善したいと思います。最終的には、技術の向上などを各自が実感できたようで大変良い成果と思います。さらに学びたいという回答も多く、今後に活かされることを期待します。
絵画入門ａ	織田　涼子	授業全体の評価は概ね平均値で、板書や配布資料に関する評価が高く安心しました。各回の進行は少し早いようなので、今後は導入の説明を改善したいと思います。最終的には課題を通して基本的な制作の姿勢を身につけ、専門的な技法を理解し、各自が成長を実感できたことは良い成果と思います。さらに学びたいという回答もあり、今後に活かされることを期待します。
基礎演習	小倉　絵里子 金原　さやこ 粂　和沙 嶋田　紗千	アンケートへの回答をありがとうございます。いただいたご意見、ご要望はしっかり受け止めて、今後の授業運営に反映していきたいと思います。 個別見学後に提出してもらったディスクリプション課題や期末レポートからは、「作品を見る力」が確実に身についてきていることがわかります。とはいえ、文献の書き方や注の付け方などは、繰り返し記述することが大切です。授業で配布したプリントとあわせてよく復習し、今後の他の授業のレポート作成に活かしてほしいと思います。
西洋近代美術史演習ａ	六人部　昭典	前期の授業は内容が多かったが、アンケートを見ると（授業時に指示できなかったので、回答数は少ないが）、概ね順調に進められたようだ。提出レポートの添削など、難しい素材もあったが、学生の積極的な取り組みの結果だと思う。後期は発表が中心になる。この積極性が次年度の卒論につながるように、授業を進めてゆきたい。
西洋近代美術史特講ａ	六人部　昭典	オンデマンド授業で心配していたが、アンケートを見ると、授業の内容・進め方は、概ね順調だったようだ。ただ、自己採点が低くなるというのは（Q14）、消化不良の部分があったためなのだろう。要点の確認など、理解の深め方の工夫を考えたいと思う。

［2022（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
西洋近代美術史入門ａ	六人部　昭典	授業アンケートを見ると、授業は概ね順調だったが、進行がやや早かった（Q6）ようである。自己採点が若干低くなるという回答も（Q14）、消化不良になった場合があったためだろう。ノートテーキングに関する助言や時間の余裕など、後期の授業にいかしたいと思う。
西洋美術史演習ａ	駒田　亜紀子	演習授業は、課題やディスカッションなどが組み込まれているため、他の講義形式の授業との違いに戸惑われた方も多いと思います。課題の種類も様々ですので、ただ単に「慣れる」だけではこなせないこともあります。ただ、こうした様々な角度からスキルや能力を磨くことにより、皆さんはご自身が実感している以上に成長しています。自信をもって、続けてください。
西洋美術史特講ａ	駒田　亜紀子	授業に対する皆さんのコメントペーパーを拝読し、皆さんが、単に「キリスト教美術の中の女性を主題とする表現」にとどまらず、その意味や現代の美術や社会において女性の置かれた立場や女性に対する「まなざし」について、非常に高いレベルで考えておられることがわかりました。授業者としてもとても励みになりました。これからも、授業の様々な内容に関して、自分ごととして考える習慣をつけていってほしいと思います。
西洋美術史入門ａ	駒田　亜紀子	西洋美術史入門aは、最初は皆さんにはなじみの薄い古代美術から始まるため、最初はハードルが高いように思われるかもしれません。そうした中でも、美術の「歴史」という観点から、時代や地域とともに変化してゆく美術の様々な側面について、知識だけではなく、その多様性は現代まで続くことにも、注目してください。こうした多様性は、美術表現にこそ、もっともはっきりと「目に見える」形で現れると思います。
卒論ゼミａ	宮崎　法子	回答してくれた人ありがとう。後期は全員解答してください。 卒論に向けて今後どのようなサポートを希望するか、授業中に話し合っていきましょう。
卒論ゼミａ	駒田　亜紀子	集計数が少ないため、正確な回答にはならないかもしれませんが、皆さんの頑張りは、着実に、皆さんの成長に結びついていると思います。これからも、自分の着実な成長を信じて、頑張ってください。
卒論ゼミａ	児島　　薫	卒業論文はみなさんが一番成長する機会です。そして自身の取り組み次第で結果が変わってきます。私はそれに伴走しながらサポートする役割なので、夏休みも気を抜かずに、夏休みこそ、しっかり取り組んでください。
卒論ゼミａ	椎原　伸博	前期の段階では、まだ卒論のテーマ自体を確定できていない人もいました。この夏期休業は卒論執筆に対して重要な期間です。既に就活も終わっているのであれば、なおさら夏期休業の時期に頑張る必要があります。8月25～26日のゼミ合宿では、経過報告を行いますので、緊張感をもって準備をしてください。
卒論ゼミａ	馬渕　美帆	就活などで忙しい中だったと思いますが、受講者の皆さんは意欲的に取り組んでくれたと感じています。最後の発表の時間をもっとゆっくりとるべきだったと思います。後期はいよいよ卒論執筆を進めていただくので、より個別的な指導をしていく予定です。
卒論ゼミａ	武笠　　朗	アンケート喚起を忘れて回答者1名でした。元々卒論ゼミは双方向的ですが、もう少し個別指導を充実できないかを考えています。文献指導や、論旨の展開指導などもっとできるかと思いますので、がんばります。受講生諸君、いよいよ卒論提出となります。本格的な執筆時期に入りますので、がんばっていきましょう。画像の準備もお忘れなく。
卒論ゼミａ	六人部　昭典	アンケートを見ると（授業中に指示できず、回答数は少ない）、概ね順調に進められたようだ。授業内容は個々の学生の発表が中心だが、学生の発言が発表者に重要な示唆を与えたこともあった。学生の積極的な取り組みの結果だと思う。後期は各々の進捗状態に応じて助言、一人一人が達成感を得られるように指導したい。
中国美術史演習ａ	宮崎　法子	最後の予定がコロナで中止になり、授業も中途半端な終わり方をしてしまい申し訳ありませんでした。みなさんが授業で活発に話し合ってくれていたのが印象的でした。より充実した演習となるように、また皆さんの意見も聞かせてください。

［2022（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
中国美術史特講ａ	宮崎　法子	私のコロナ罹患で、最後の試験が対面の試験ではなく、リモートになってしまいました。申し訳ありませんでした。試験問題も少し足したぶんがむずかしかったようです。後期の始まりまでに、模範解答をお示しできるようにします。また、manabaから連絡します。 ジェンダー的な美術の見方は慣れなかったと思いますが、 絵を、色々な見方で見ることで、自分の周りの様々な ことを、客観的に分析して、男性だけの視点からでなく、 女性が生きやすい社会に近づくようにするための練習と思って下さい。
中国美術史入門ａ	宮崎　法子	オンデマンド授業のため、皆さんの反応も的確に把握できませんでした。同じオンデマンドでも音声付きと文字と画像によるものと、何度かアンケートを採って希望を聞いたのですが、わずかに文字と画像が多かったため、そのようにしましたが、どちらにしても半分の人は希望とは違うことになるので、教員の側も悩まく、課題未提出者が多く、試験欠席者も多かったことは、それも影響していると考えられ、残念でした。また、最後の試験の時にコロナにかかってしまい出校することが出来なかったことは、申し訳なかったと思います。皆さんが少しでも中国美術を知る機会となったら、うれしく思います。試験の正解はmanabaの追試の問題と解答と同じですので、確認してください。
日本近代美術史演習ａ	児島　　薫	今学期はやっと全員で美術展見学をおこなうことができたので、実作品を教材にじっくり取り組むことができて、みなさんも手応えがあったと思います。依然感染状況は危険ですが、美術館内は比較的安全な場所なので、休みの時を利用して、様々な美術品に触れてください。
日本近代美術史入門ａ	児島　　薫	月曜日４限の授業で、早くから暑さも厳しく、みなさん疲れ気味であったように感じました。それでもよく休まず授業に参加してよく取り組んでくださったと感じました。日本の近代美術は少し美術館に行けば一番目にしやすいのですが、一般的には西洋近代美術の作品の方が予備知識があるのが現状です。夏休みを利用してぜひ実物に触れてください。そうすればもっと理解しやすくなります。
日本美術史演習ａ	馬渕　美帆	初めての授業で試行錯誤でしたが、受講者の方におおむね満足していただけたようでよかったです。自分で発表を組み立てて行うことや、他の人の発表にコメントすることは社会に出てからも役立つ重要なスキルですので、今後も意識的に取り組んでいって下さい。
日本美術史特講ａ	馬渕　美帆	オンデマンドの授業で受講しにくい点もあったかと思いますが、毎回の課題など、受講者の皆さんはとてもよく書いて下さっていたと感じます。受講上の希望や質問をすぐに受けにくく、不満を感じた方もおられたことと思います。皆さんからいただいた回答を元に、後期の特講bの方法を工夫していきます。
日本美術史入門ａ	馬渕　美帆	大学での初めての授業で、情報量も多く、大変に感じた方もいたことと思います。入門aの内容は、今後美術史を学ぶ上での基礎となるので、資料を見返したり図書館の本で復習するなどを積極的に行っていただきたいと思います。 授業での配布資料の形や内容などは、学科全体の方針もありますが、今回いただいた回答を元に改善をはかっていきます。授業中は、自主的にメモを取ることを心掛けて下さい。
美学演習ａ	椎原　伸博	授業アンケートの回答率は低かった（27.6%）のですが、そこでの授業の理解度は平均より低いですが、76.2%とまずまずでした。また、課題に対する学習時間も必要であったためか、予習復習時間は1.38hと平均以上でした。さらに、授業への意欲的な取り組みも4.38%と高く、是非、このままの学習態度を維持していただければと思います。
美学特講ａ	椎原　伸博	この授業は、オンデマンドで行った2020年度と内容的に重複する部分が多い授業です。その時の理解度は69.2%であったのに対して、本年度は対面で行ったのにもかかわらず63.7%に止まっています。また、予習復習時間は、1.35ｈから1.00ｈへと下落しました。授業の反省として、少し一方通行的すぎた点と、言葉が聞き取れない点などがあげられ、特講bではそれを改善していきますので、もし受講するようでしたら、学習時間の向上を意識してください。

［2022（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
美学入門ａ	椎原　伸博	皆さん、美学入門aのオンデマンド授業ご苦労様でした。この授業は、毎週定期的に授業をこなしていくため、授業公開期間を1週間と設定しました。ところが、今年度は早々に授業を諦める学生が多くいました。また、2020年度と授業内容は殆どかわりないのですが、理解率が67.8%から56.7%へと下落しました。確かに、1年前期に8個もある必修科目で、4つの対面授業の他に4つのオンデマンド授業をこなしていくことは大変だったかと思います。しかし、この授業の内容はそれなりの学習時間をとらないと、理解が難しいと思われます。ちなみに、2020年度のこの授業の予習復習時間は1.39ｈだったのに対して、今年度は0.88ｈとなっています。全体平均や当該区分の学修時間も2020年度より少なくなる傾向となっていますが、この学修時間はあまりにも少なすぎます。大学へ通う時間、アルバイト等の時間等で学修時間が少なくなる傾向が高いとは思いますが、学習内容を理解するためには、さらなる学習時間が必要となります。 無論、教授方法に対して改善するべき点も多くあると思います。たとえば「教科書のどこをやっているのか少し把握しにくかったので、授業の最初に今日の内容の説明が欲しかったです。」といった意見は、入門bではよりわかりやすくなるように心がけます。一方、「高校時代に習った倫理の延長線のようで親近感があり楽しく学べた。教科書の内容が難しく量が多いため要約されたレジュメが非常に役立った。」という意見もありました。さらに、オンデマンド授業でありながら、二回の対面でのグループ学習の学習効果があったようです。 とにかく、美学入門bは入門aよりも、哲学的内容が濃くなっていきますので、是非高校時代の倫理等の復習をしつつ、授業に臨んでいただければと思います。
仏教美術史演習ａ	武笠　　朗	今回は、受講者自体が10人と少なく、さらに私がアンケートを出すよう促すのを忘れたせいで、わずか4人の回答でした。反省しています。ただ授業としては、少人数のため発表時間も十分に取れたし、発表に対するコメントを書かせたりできたので、ある程度良かったのではと思っています。今後はさらに学生の意見・発言を上手に引き出す方法を研究し、授業に幅を持たせたいと考えます。
仏教美術史特講ａ	武笠　　朗	この授業は久しぶりで（2年間担当せず）、コロナ後の方法を模索しつつの授業展開でした。元々受講人数が少なく、さらにアンケートを出すよう促すのを忘れたため、わずか9人に回答でした。ですので授業に対する反応が今一つつかめませんが、結局この特講の授業は、内容がいかにおもしろくなるか、にかかっているかに思われました。しっかりとオチのある、輪郭の明瞭な話にするよう心がけますので、学生諸君は、ますは授業を集中して聴くことを心がけてください。
仏教美術史入門ａ	武笠　　朗	この授業は今回オンデマンド授業となったのですが、例年になく多くの脱落者が出てしまいました。途中から授業を聞けなくなった学生が多かったようです。それは、オンデマンド授業の授業をため込んでしまい、追いつけなくなったというのが実情のようです。私としては、それほど無理させているつもりはなかったのですが、専門必修の授業がこの授業も含めて4つもあったのが、こちらが予想できない事態に至った理由のようでした。なんとか対策を講じますが、とりあえず、授業をため込まないように努力してみてください。
民俗芸能演習ａ	串田　紀代美	前期の授業、おつかれさまでした。まずは、大学3年生に対してかなり高度な要求をしたにもかかわらず、履修者のみなさんがこちらの意図を理解し、さらにレベルアップをめざして積極的に本授業に取り組んでくださったことに、心からお礼を申し上げます。と同時に、みなさんのチャレンジ精神と未知なる可能性、粘り強さに驚かされました。「きっとこのあたりが限界だろう」というこちらの予測をはるかに超越し、発表原稿の内容や発表のパフォーマンスを、授業の回を追うごとに向上させてくださった履修者のみなさんに、ただただ感服するばかりでした。学生の未知なる可能性を信じる大切さをみなさんから教わりました。今後も興味や関心を持ち続け、さらなる探求心で研究を深めてくださることを期待しています。後期もさらに成長し続けましょう。
民俗芸能特講ａ	串田　紀代美	前期の授業、お疲れさまでした。美術史を主軸に学んでいる本学科のみなさんにとって、近代の舞踊と身体文化に関する授業内容に、はたしてどのくらいの方が興味を持ってくださるのだろうと、開講前は非常に不安でした。しかし蓋を開けてみると、多くの履修者のみなさんが近代における文化事象全般に興味を持ってくださり、特に身体文化と美術・芸術との関わり、その背景にある歴史について真摯に学んでくださいました。授業は、近代以降の美術史分野の内容とできるだけ関連付け、シラバスを組み立てたつもりです。話題が「帝国劇場」「古典バレエ」「バロックダンス」「モダンダンス」「バレエリュス」「民族舞踊」とバラエティに富んでいましたが、近代以降の美術史は舞台芸術と密接に関連していること、かつては「美術」「舞踊」「音楽」といったジャンルを越境してさまざまな立場の人々が関与し「舞台芸術」が存在していたことを、あらためて理解していただけたら幸いです。

［2022（前期）美学美術史学科］授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
民俗芸能入門a	串田　紀代美	前期の授業、お疲れさまでした。日本全国にある大学を見渡しても、「民俗芸能」に関する授業が1年生から4年生まで学べる大学は珍しいと思います。馴染みのない「民俗芸能」という科目に対し、多くの履修生のみなさんが興味を持ち、真摯に学んでくださったことにまずはお礼を申し上げます。普段聞きなれない用語や概念が多かったにもかかわらず、「民俗学」や「民俗芸能」をはじめとする日本の伝統芸能に理解を深めてくださったことが、本アンケートを通じて理解することができました。授業の説明ならびにパワーポイントなどの資料の分かりやすさについて、履修者の90%の方が支持してくださったことは、担当教員にとって大きな励みになりました。日常生活、とくに漫画やゲームなどの大衆文化の中で、「民俗学」や「民俗芸能」が題材になっていることが多々あります。今後も、生活文化の中の「民俗」と「民俗芸能」のエッセンスをぜひ発見していただけたら嬉しいです。